

事項	トマト黄化えそウイルス (TSWV) によるキクえそ病の発生		
ねらい	<p>トマト黄化えそウイルス (TSWV) は寄主範囲が広く、各種花き類における発生が懸念されていたところであるが、本県花きの主要品目であるキクでキクえそ病の発生が確認された。そこで花きにおいて本ウイルスの最も警戒すべき侵入事例として注意を喚起するとともに本病の発生特徴を明らかにし、早期発見と防除対策のための参考に供する。</p>		
指導	<p>1 発生確認時期及び場所 平成12年11月、南津軽郡藤崎町</p> <p>2 発生状況 簡易パイプハウス3棟に作付けしている秋咲き輪ギク品種「神馬」で発生。ハウス毎に定植時期を変えて栽培していたが、調査時点で開花期及び着蕾期の2棟ではほぼ全株に発生。遅く定植した残りの1棟(草丈約30cm)では約50%が発病していた。</p>		
参考	<p>3 病徴 多くの株は中位葉に退緑斑紋が現れ、発病葉は黄化・枯死する。また、発病株の茎を縦断してみると髓部全体に褐色のえそが見られる。</p> <p>4 アザミウマ類が媒介 TSWVはアザミウマ類、特にミカンキイロアザミウマが伝搬するとされている。1齢幼虫がウイルス保毒株を吸汁することでウイルスを体内に取り込み、成虫になり健全株を吸汁することで伝染が成立する。今回、キクえそ病が確認されたハウスでも、ミカンキイロアザミウマの成虫及び幼虫が確認された。</p>		
内容	<p>5 発生原因の推定 発生ハウスの周囲はリンゴ園、バラハウス及びトマトハウス(片づけ後)であった。キクえそ病はほぼハウス全体に発生しており発病の偏りが無いことから、ハウス外からアザミウマ類によって伝染・蔓延したとは考えにくい。親株は県外からの導入品種であることなどから、親株を導入した時点ですでに感染しており、さし穂の増殖により広がった可能性が高い。</p> <p>6 防除対応 本病発生ハウスではTSWV伝搬能力の高いミカンキイロアザミウマの発生が確認されており、放置すると次年度の発生源になる可能性がある。従って、早期発見に努め、発生が確認された場合には関係機関と協議の上、速やかに蔓延防止対策を講じる。</p>		
期待される効果	キクえそ病の発生経過と病徴を明らかにすることにより、早期発見が可能となり、本病の蔓延を回避できる。		
利用上の注意事項	なし		
担当	フラワーセンター21あおもり 生産開発部・普及技術部	対象地域	県下全域
発表文献等	平成12年度フラワーセンター21あおもり成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 DIBA法によるキクからのTSWVの検出

(平成12年フラワーセあおもり)

抗血清**	検 定 試 料*											対照	健全	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11			
日植防	+	+/-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-
GBC	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-

\*検定試料：1～6；神馬感染葉、7～11；神馬発病茎の髓部

\*\*抗血清：日植防；モノクローナル抗体（購入品）

GBC；グリーンバイオセンター作製ポリクローナル抗体

表2 キクえそ病発生ハウスにおけるミカンキイロアザミウマの発生状況

(平成12年 フラワーセあおもり)

品 種	調査数	ミカンキイロアザミウマの虫数 (10花計)			他のアザミウマ類
		雌成虫	雄成虫	幼 虫	
神 馬	10花	23	11	8	0

花をビニール袋に入れて持ち帰り、室内で払い落として確認



キクえそ病の病徴  
(中位葉葉身黄化及び枯れ上がり)